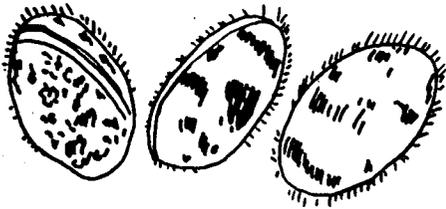


幼虫を加害するカイミジンコについて

大 神 圭 二 (大分県)

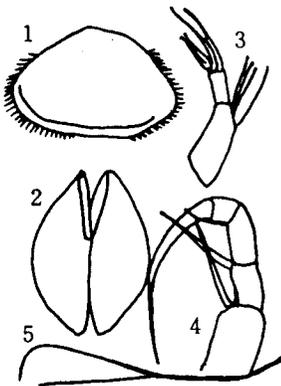
実験室内でシャーレにてゲンジボタルの幼虫を飼育していたところ、1979年10月中旬頃から小虫らしいものが発生、幼虫の活動を鈍らせているように思われたので、検鏡の結果カイミジンコと同定(南大分中、佐藤真一氏)、0.3~0.5mmの小虫で幼虫にむらがり、体液等を加害することが判明した。



カイミジンコ検鏡スケッチ (側面)
1980年1月23日

なお、形態については新日本動物図鑑(北隆館発行)中巻、上野益、三博士の文を引用した。

殻は卵円形を帯び、背縁は大きく弧を描き、腹縁には浅い湾入部があり、前縁から後縁にわたって長毛をまばらに生じている。左右の殻はほぼ同形である。第1触角の遊泳枝は長い。大腮鬚の第2節は、頂端に2本の強大な爪状の刺と2本の剛毛とを有する(図の3)。第1胸脚の鎌状突起は大きく、それにつづく3節を合わせた長さよりはるかに長い。また第1胸脚の呼吸板は5個の波状物を有する。尾脚はその基節の長さの2倍に達する細長い刺状突起を有し、尾刺はすこぶる短かくて曲る。図の1および2は雌の殻の側面、および背面、殻長約0.6mm内外、高さ4.5mm内外、殻面に目立つような色彩がない。本州各地の水田のような浅い水域に生活し、わが国以外からはまだ知られない種である。〔上野〕



節足動物 甲殻綱 介形亜綱
(ポドコーバ目 かいみじんこ科)
ごみまるかいみじんこ *Cypridopsis venoi* V.
BREHM



カワニナ捕食中のヒルの一種?
下は伸びきったところ
(1979, 9.28: 村上)